



### 山本 宗一

福岡工業大学附属城東高等学校勤務  
平成14年3月 工学部機能材料工学科卒業

城東高校野球部は、甲子園出場回数5回(春・夏通算、部員41名)目標は全国制覇。目的は人間力の向上を念頭に置き、日々指導を行っております。私の仕事は子供たちと一緒にチームを作り上げ目標を達成し、子供たちの心を育ててあげること

私の恩師であります渡邊監督からは野球を通じて沢山のことを学びました。社会人としてのマナーである挨拶と礼儀、仲間と協力し合う協調性、どんな困難にも怯まない前進力、そして過ちを許せる広い心、社会人として、また人としての大切な教養を心の中に植えていただきました。大学球界の指導者の中で、これまで心を育ててくれる指導者はいないので、いかと今でも教養子として誇りに思っております。

私は平成14年3月に工学部機能材料工学科を卒業しました。在学中は硬式野球部に所属し、毎日が野球漬けのような学生時代を送りました。卒業後、母校であります、福岡工業大学に就職し、就職指導や学生募集の業務を行いながら、硬式野球部のコーチを務め、平成21年10月より、福岡工業大学附属城東高等学校野球部の監督を務めております。学生時代は、野球を通じて人間力や心を育てていただきました。



### 青野 昇三

総合広告青広(株)(セイコウ) 代表取締役  
1978年 電気工学科卒

先ず最初に大学に入って、四国愛媛松山から来た私は、「博多は都会やナ」と思い探索の毎日でした。当時学校の周辺はと田舎で、海・山ばかりが見える感じでしたが、たまに福岡へ行った折に立ち寄ると、今は見違える程来て戸惑うばかりです。現在、私は広告制作会社と広告代理店を運営していますが、第二の故郷である福岡で大きい遊学んだ時期が人生のベールを創っていたのだなと、つくづく思います。昭和53年に電気工学科を卒業しましたが、今の仕事の基本となるシルクスクリン印刷広告制作業を福岡で学びました。そして福岡から見て、松山の広告の世界は遅れ過ぎていてと感じ、このままでは松山みたいな田舎は都会の先進技術に食われてしまうと思い、松山に帰り今の会社を作る事になりました。現在に至るわけです。もうひとつ、私が会社を作るきっかけとなったのが卒業の折、笹川良一理事長が壇上での挨拶で「君たちは就職難と言っているが本当にその会社に入りたいのか?本当にその会社に入りたいければ一ヶ月無償で毎日便所掃除をしろ。その行為に役員は絶対気付いて雇ってくれる。この行為に気付かない役員は会社は潰れる」と

話され、この様な気合と心掛けを深く心に納め、今も挫けそうになりそうなる時この言葉を思い出して自分に「濁ッ」をいれています。最近息子に会社の運営を指導して世代交代の準備をしているところです。親子二代の福工大卒業なので理系の数値論でよくぶつかり悩みますが、現実論優先でやるしかないでこの荒波を頑張っております。

私は思うのですが、小さい頃からよく遊びよく学べを教えられて来たのではないかと。大人になつて行くに従い何処かへ置いてきてしまうのでしょうか。最後に「世の中を動かす変える天邪鬼」。

私の持論は「楽しくなくちゃいけない、何事も。」この持論のモチベーションを落とさない方法は健康で元気である事、女界灘で買ったサーフィンを今も毎月2回は高知の海でやっております。またトライアスロンも26年間やって、つい最近にフルマラソン、自転車ロードレースそして大型バイクは40年間ツアリングなどで楽しんでおります。

昔は金木犀の花の匂いがしたら、もう秋だなど思っていたのですが、最近の子供たちは感受性が低いなど感じます。社会に出れば、クライアントが何を求めているか、次のアクションはどうしないといけないかなど、常に何かを感じないとイケません。野球も同じです。相手がどのように攻めてくるか、次は何のサインが出るか、自分の背後でどのようなプレーが起こっているかなど感じる事だらけです。野球というスポーツは感性がなくてはできません。社会に出ても同じことです。わたしは常々感じなきさい?と問いかけてます。野球を通じて子供たちに少しでも感性をつけてあげることが社会に出てからの手助けになると思っております。渡邊監督が私の心に大切なものを植えてくれたように、今後は私自身が子供たちの心に少しでも大切なものを植えてあげられるよう努力していきたいと思っております。

## 2009年度 福岡工業大学同窓会育英金をもらって

### 工学部生命環境科学科4年

この度は、同窓会育英金の奨学生に選んで頂き誠にありがとうございました。今月初めての受給でしたが、内定したとのご連絡をいただいたときはとても嬉しかったです。まずは、選考に携わってくださった先生方や同窓会の役員の方々にお礼を申し上げます。

この1年間、同窓会育英金の名に恥じぬよう、及ばずながら卒業研究に就職活動にと全力を尽くしてまいりました。振り返ってみると、至らない部分もございませぬが、自分なりに有意義な実り多い学生生活を過ごすことができたと思っております。こうしてつがなく希望の学業を修め、今日という日を迎えることができるのも、同窓会役員の方々の働きと同窓会会員の皆様の貴重な会費でありまして、私は勿論、家族一同感謝の気持ちで一杯です。

こうして卒業研究も無事ラストスパークをかけることができるのもこの育英金を受給させて頂いたからだと思います。もし、この育英金の受給がなければ通学に1時間以上かかる大学へ行き、平日は朝から夜まで実験をし、休日は休みなくアルバイトで体調不良を起していたと思えます。そうなれば卒業研究の発表に間に合わず、卒業に支障が出たと思えます。

また、学費のためにアルバイトを行っていたら十分な就職活動をする事はできなかったと思えます。ましてや、この不景気です。未だに内定が決まっていなかつたかも知れませぬ。研究室の中で一番に内定を頂くことができたのも、育英金の受給のおかげで負担が減ったからだと私は考えます。

経済不況が言われる中、支えてくださった同窓会会員の皆様、そして支給業務に携わってくださった全ての皆様、心から御礼を申し上げます。本当にありがとうございました。卒業後、新たな人生の一步を踏み出しますが、こうして私を支えてくださった皆様へのご恩と感謝を忘れず、同窓会育英金を受けた者として恥ずかしくないよう、より一層精進して参りたいと思っております。

### 情報工学部情報工学科2年

この度は福岡工業大学同窓会育英金を給付していただき誠にありがとうございました。私のためと同窓会費からいただいた育英金により受けて同窓会費は会員の皆様方の善意により支えられているのだと強く感じています。数多くの支援によって私の大学生活があるのだと思つて、文面で上手く言い表せないので、心を込めてありがとごいせましたと伝えたい気持ちで一杯です。

また、この厚意はただ享受するだけでなく、いつか自分も支える側になれるように励みたいと思っております。そしていつか私と同じような境遇を持った方を自分から支えられたらと思っております。欲を言えば人を支えられるだけの自立した存在になりたいと感じました。そのための力を私が持つためにもこの大学の勉学を物とし、新たな目標のひとつとしてこの気持ちを心がけ、自立をしつづけようと思っております。

この同窓会育英金をいただくことで、アルバイト本位の学生生活にならず余裕を持ってこの半年を過ごすことができました。また、私にゆとりを持つことができたおかげで、家族に過度な不安や経済的な圧迫をかけずに済み、兄弟の進路を私のせいで狭めずに済んだことはこの育英金を給付していただいたことで最も感謝していることでもあります。また、この育英金を返還しないというところで、私自身がこの大学を卒業した後、新卒で自立するための計画において飛躍的に状況が良くなり、前記のとおり自立するために夢や理想だけでなく経済的な計画が必要で、そういったなかでより早く自立できるといってもはそれだけ早く兄弟を支えられるということもあり、それを併せればこの育英金はきつといただいた金額以上の支えになるのだと思えます。

そしてこの同窓会育英金を学内で知らない学生も多く存在すると思えますが、たとえ無自覚でも自分が自分たちが、他の学生を助けているという事実を知ってほしいです。そうしただけでいい意識の改革を一人でも感じたい、この福岡工業大学はきつと今より、よりよい雰囲気のある大学になれると感じます。より良い大学になるということはそれだけ母校を受入れることができます。成績も大事ですが、まず性格の良い人を支えてあげたいと私自身が思うからです。今の私には具体的な案を挙げられませんが、もう少し回りの学生に知ってもらえたら嬉しいなと感じました。

福岡工業大学同窓会が「一般社団法人雄飛会」になりました。同窓会が飛躍する以上に母校も大きく飛躍しております。そのため、雄飛で伝えたい母校のトピックスが目白押し。発行時期が遅くなってしまった事は御容赦下さい。(広報部)

## 編集後記